

あなたの専門性をお貸しください！

災害時要援護者拠点施設専門職登録制度

☎ 福祉課 ☎84-0316

大規模災害発生時には、福祉会館が災害時要援護者の拠点施設となります。

災害時要援護者拠点施設の機能を充実させ、避難生活のQOL(生活の質)の維持・向上のため、看護師や介護士の方に事前に登録していただくための制度です。

大規模災害発生時に自分の職場まで通勤できない、または勤務先から帰宅ができない可能性のある専門職資格をお持ちの方は、町の臨時(大規模災害時のみ)非常勤職員として、要援護者拠点施設での活動にご協力ください。

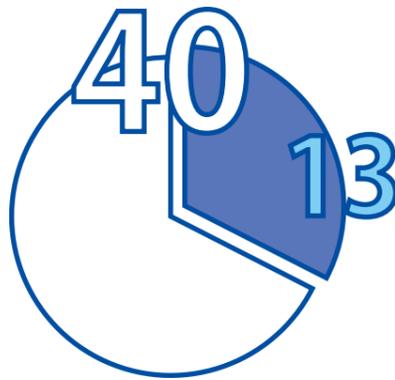
大規模災害発生時



拠点施設に避難してきた要援護者の避難生活に必要な介助等に従事していただきます。

避難する時に支援が必要な高齢者や障がいをお持ちの方などを事前に把握し、自治会(自主防災会)や民生委員、町社会福祉協議会、行政が情報を共有し、大規模災害発生時の支援のために活用する制度です。

災害時要援護者登録制度



皆さんの力が 必要です！

町では登録者数の目標を40名としています。

平成28年3月31日現在、登録者数は13名となっており、目標数には達していない状況です。皆さんの登録をお願いします。



福祉避難所協定を締結しました！

開成町では、高齢者や障がい者などの災害時要援護者の一時的ケアを担う体制を構築するため、福祉施設や医療機関等と協定を締結し、福祉避難所の設置を進めています。

平成28年3月28日(月)に、認知症高齢者の避難施設を確保するため、認知症対応型共同生活介護(グループホーム)を運営する株式会社大楽と「福祉避難所協定」を締結しました。これにより、町内の福祉避難所は3か所となりました。

今後も、災害に強いまちづくりを推進するため、福祉避難所の拡充を図っていきます。



協定を締結する(株)大楽の岩澤一夫 代表取締役(右)と府川町長



中家村公民館で体操に参加した皆さん

中家村

カラオケ体操で 介護予防！



カラオケ体操で体を動かします

中家村自治会では、いきいき健康体操指導員が中心となり、「カラオケ体操」を作りしました。

懐かしの歌謡曲に合わせて、体を動かすこの体操は、中家村の民生委員が自治会長に、「カラオケを活用した体操が介護予防になる」という新聞記事を紹介したことに始まります。

市販のDVDは高価なため、グラフィックデザイナーの会社を運営している佐々木康次さん(中家村)に相談したところ、それならばと、自分たちでDVDを作ることになりました。

曲は自治会長が選曲し、振り付けは小野優子さん(中家村)が担当されました。

現在は、「北酒場」「人生いろいろ」「哀愁列車」の3曲があります。定例で公民館で行われている自治会のいきいき健康体操講座でも好評。

今後は、町内にも普及していく予定です。

自治会 活動

あなたも地域の輪に入りませんか。

「自分の住む町を、自分で住みよくする。」そんな気持ちで人とつながれば、地域は盛り上がり、町は元気になります。ここでは、自治会での活動を紹介します。

宮台

災害時安否確認カードを導入！

災害時安否確認カード

| 組 | | 幼児 | 小学生 | 中学生 | 高齢者 | 在宅 | 特子 | その他 |
|----|--|----|-----|-----|-----|----|----|-----|
| 組名 | | | | | | | | |
| 住所 | | | | | | | | |
| 登録 | | | | | | | | |

宮台自治会で使っている災害時安否確認カード



左から、露木勇夫さん(9組組長)、永田英男自治会長、千葉孝輝防災部長、蒔田弘之さん(12組組長)

宮台自治会では、昨年「災害時安否確認カード」を導入しました。

これは、大規模な災害で家が倒壊した際、その家の住人が全員避難所に避難が完了したか確認できる大切なカードです。

この取組みは、永田自治会長が、自治会長就任前に参加した、町主催「地域リーダー育成研修」の事例発表からヒントを得た取組みです。自治会長就任後、各組長の協力のもと自治会加入世帯へ呼びかけたところ、97・6%の回収率となりました。

「災害時において、自治会が重要であると、地域の皆さんが認識していることが、高い回収率につながったのではないかと自治会長。

カードができたことで終わりではなく、今後はこのカードを活用して、地域の防災力をいかに高めていくかを、自治会で考えていく予定です。